

ほぼほぼにえねるぎっしゅ



〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 2-8-4 日本橋コアビル Tel&Fax03-3639-5518

* * * * * 気まぐれ不定期刊 * * * * * * * * * * < vol. 4 > 2002. 7. 20 * * * * *

2002. 6. 24 エネルギートークサロン in 浜どおり 『聞いてみよう！暮らしの中の放射線』

あすかエネルギーフォーラム代表 秋庭悦子

福島県富岡町で開催いたしました「エネルギートークサロン in 浜どおり」には福島市から 27 名、地元の浜通り地域からは 40 名、そして首都圏から 9 名、合計 76 名の方にご参加いただき、誠にありがとうございました。

原子力については、「原子力=事故=放射線や放射能の影響が怖い」と思っている人が多いのではないのでしょうか。昨年、福島市で開催しました「エネルギートークサロン in ふくしま」でも、「原子力発電は二酸化炭素は出さないが、放射線を出すので怖い」という意見もありました。そこで、今回はこの放射線をテーマに取り上げ、専門家の久保寺先生にお酒など身近な例をあげて、分かりやすくお話いただきました。ガンへの影響など、また続きを聞きたいと参加者からの熱心な要望もありました。

後半のテーブルトークでは、活発に意見交換が行われました。同じ県内でも、かなり、考え方も意識も違うようでしたが、これを機会に、お互いに理解を深めていただければ幸いに存じます。生活者同士が話し合い、気づき合うことにより、見えてくるものがきっと、あるのではないのでしょうか。

当日ご参加いただきました方のご協力いただきました皆様へ改めて感謝申し上げます。

久保寺 昭子先生の講演

『暮らしの中の放射線』を聴いて

寺尾 千之

＜放射線をいじって40年＞

「この手で放射線をいじって40年。自然科学者として確実な論拠に基づいた事実を伝え、正しい知識を伝える努力をしたい」と、自己紹介からスタート。

＜医学分野の放射線利用＞

私達と同様、2700 万種類の細菌(ばい菌)にとっても「地球は母なる大地」。ばい菌や有害物質のないところに住むこと自体間違いで、免疫や体力を鍛えていく必要性がある。私達の身体の仕組みを「化学的には素材:身体は水たんぱく質、ミネラル、脂肪でできている」



- ・昭 31 年東邦大学薬学部薬学科卒業、薬学博士。
- ・昭和 59 年東京理科大学薬学部教授就任。
- ・現在、東京理科大学名誉教授。原子力安全委員会安全規制専門委員会委員、中央審議会委員など歴任。
- ・著書「からだのしくみと放射線」など多数。

「物理的には原材料:身体には 29 種類の原子が必要」「生物的には生命科学:身体には 100 兆個、100 万種類の細胞がある」と、わかりやすく解説。医学分野で放射線が役立っている実例として、『ガンのミサイル療法』や、放射性カリウムを利用した進行性筋ジストロフィの早期発見などを紹介

＜飲酒と身体の関係＞

さらに、赤血球、肝細胞、血糖まで話は及び、「肝細胞は 55 日で新陳代謝。日本酒1合飲むと3時間で分解。一日あけるとリニューアル。二日酔いには、休養や流動性のある水分などが必要」と、飲酒と身体の関係为例に、二日酔いの肝細胞に高たんぱく質がいったときの危険性などにもふれ、いつ、何を、どのようにとりこむかが大切と、健康に対する正しい理解を促しました。

＜放射線に興味を＞

35 度～42 度の中でだけ生存可能な人間の細胞。脳の体温調節機能を麻痺させる過度な飲酒(エチルアルコール)などを科学的に解説後、急性アルコール中毒で亡くなったりストレスでガンができないよう、健康には規則的なリズムとバランスのとれた生活が必要とアドバイス。放射線でガンになるとは確認されていないし、放射線の経済効果は大きい。半導体やスタッドレスタイヤにも利用されている、「もっといの玉簾」という素晴らしい格言を引用して応えて下さいました。

どのテーブルも活発な意見交換

久保寺先生の講演後、76名の参加者は10テーブルに分かれて話し合い。浜どおりの参加者はモニター経験者が多くテーブル内で活発な討論。後ろの声が大きくて、自分のテーブルの発言が聞こえないと進行役が嘆くほど。会場全体からピックアップで紹介します。



地元だから思うこと

- ・ 東京は消費地、危険が伴うのは立地だけというのは、バランスシートが合わない。
- ・ 電源交付金は地元1/3、県2/3。人口比で配分されるので福島市やいわき市は多額なはず。いわき市で原発反対集会をするのは納得できない。
- ・ 不夜城のような都会を見るにつけ、ギャップを感じる。皆でエネルギーについて考える必要がある。
- ・ 地元の避難道路は最初に造るべきだった。避難訓練はしている。でもなにかあったら50キロ圏内の私たちはここにいて外からの助けを待つことになる。
- ・ 冷害のときにも出稼ぎに行かず家族揃って暮らせたのも発電所があるおかげ。
- ・ 現在の発電所は雇用が減少しているが、それに代わる産業がない。農家の長男には嫁のきてがなく、みんなの心を蝕んでいる。

原子力発電は安全だというけれど・・

- ・ 発電所で働いていた。研修をして試験に受からなければ働けない。放射線量の測定器をつけて限度になればブザーで分かる。3ヶ月毎の健診もあるし、実際の働く人が初心に戻って行動すれば問題はない。JCOの事故は問題外。
- ・ 発電所を見たらどんな安全管理がされているか理解できるので、ぜひ見学して欲しい。
- ・ 魚が危ないという声があるが、農産物・水産物への被害はない。魚は美味しいし、養殖のヒラメやアワビも大きく育っている。

- ・ プルサーマルはどんなものかわからない。知事が反対するのだから危険なのではないかと感じる。
- ・ プルサーマルは普通の原子炉で起きていること。リサイクルのゴミを減らせるのに、なぜ反対するのか分からない。
- ・ 原発やプルサーマルは yes/no で答えられない。信頼性を築いた上で、実施すべきと思う。

日本のエネルギー自給率はたった4%

- ・ 家電製品の効率が良くなれば、原子力発電所を増やさなくていいと思う。
- ・ ウズベキスタンのアングレンに露天の石炭があり石油も天然ガスも出る。日本でも石炭が取れるのだから石炭を使えばいい。
- ・ 次のエネルギーが確立するまでプルサーマルで核のゴミを少くして資源を長持ちさせたい。



電気がない生活なんて、

- ・ タシケントでは電気・水道は無料、ガス代は取るようになったので、今まで点け放しだった火を消すようになった。停電は時々ある。
- ・ 電気がない生活はありえない。ATMなどのライフラインがアウトになると怖い。
- ・ 消費者が協力できるのは省エネ。電気がないとダメな生活はわがまま病のようなもの。
- ・ 24時間営業の店が増え、家庭でもIHクッキングヒーターに変わってきている。いつの間にか電気に頼る生活だ。
- ・ 高齢者がガスの消し忘れで火事になったので、オール電化の家にしようかと思う。ますます電気に依存しそう。





会って話して感じる

- ・ 敦賀で婦人グループが原発や省エネについて、紙芝居を作り学校へ行って児童に見せている。すばらしい活動だと思った。
- ・ 六ヶ所村に見学に行ったとき、福島は自分のゴミは自分で処理しなさいといわれた。
- ・ 狭い日本。役割分担していかなければならない。現場を知り感謝の気持ちが大切。
- ・ 東電の電力の22%が、原子力・火力・水力あわせて福島で作られている。首都圏の方は知っているのか話を聞きたい。
- ・ 何気なく使っていたけど、これからは電気が福島からも送られてくると感じるができる。
- ・ 大熊町・双葉町・富岡町など地元同士の交流をすべきなのかもしれない。

子どもにどう伝えるか

- ・ 東京の子供に福島や柏崎から送電されていることを知らせるべきだ。
- ・ 次世代のことを考えると、廃棄物の処理や発電所の耐久年数などについて非常に関心がある。
- ・ 今回のような交流会にもっとお母さん達に参加してほしい。
- ・ 福島県内の産業として電気のことと教え原子力発電所を社会科見学の対象にすべき

情報を選んで自分で考える

- ・ ニューヨークのテロの時、原発が狙われると風評に惑わされた。
- ・ 正しい情報を選ぼうと思っても、いろいろ違うので、自分で考えて選んでいくしかない。
- ・ シンポジウムに参加してそのときは納得するが、時間が経つと講演者は原発を推進しているように見えてくる。
- ・ 事故の時はどの程度なのか、速やかに分かりやすく知らせて欲しい。
- ・ 一番悪いのはデータの改ざんや隠蔽だ。
- ・ 電力の自由化が進んでいる。個人の契約も電話のように自由化するといい。
- ・ 家庭や生活のことを一番分かっている女性ももっと強くなり、発信すべきかも知れない。



司会者からひとこと

福島支部長 渡辺 信子

この日ばかりは梅雨も一休みの6月24日、福島からの参加者を乗せたバスは初夏の阿武隈山系の山あいを走り続けること2時間あまり、皆様の待つ会場へ駆け足でゴールイン。秋庭代表の挨拶に続き久保寺先生の講演に入りました。怖いイメージの付きまとう放射線の事身近な健康のことなど貴重な事例を挙げて話され正しい情報の選択と違った角度からものを見ることの大切さを教えていただきました。

午後からのテーブルトークではこの様な語り合いの場を待っていたかのように浜通りの方と中通り、そして東京の方々が初対面とは思えないほど打ち解けて終始和やかな雰囲気のもと暮らしのこと、エネルギーのことなどを本音で語り合い会場の盛り上がりは最高潮！そして時間切れを惜しみながら再会を約束して会場を後に。ご協力に感謝。



浜通りってどんなところ？

福島県の太平洋側の地域です。

東京電力の2ヶ所の原子力発電所と火力発電所、それに地元東北電力の火力発電所もあるエネルギーの大生産地でもあります。



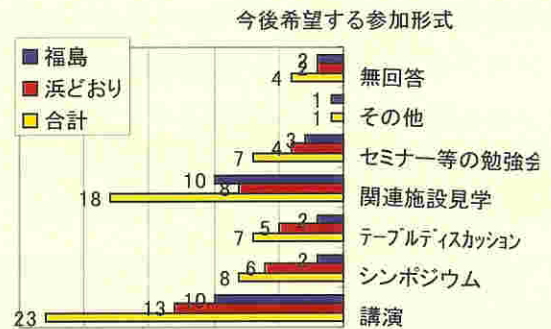
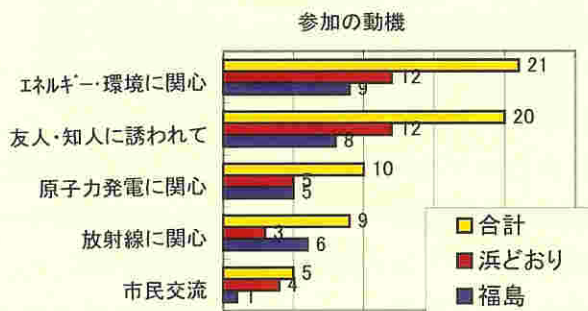
エネルギー・環境問題や、私たち『あすかエネルギーフォーラム』の活動に興味をおもちの方に、今後発行するニュースレター“えねるぎっしゅ”をお送りします。ご希望の方はご連絡ください。

<アンケート結果>久保寺先生の分かりやすい放射線のお話は大好評。

自由回答から

- ・今まで怖いとしか意識していなかった放射線でしたが、正しい知識を得るという事は本当に大事なことだと思いました。難しいことを楽しくわかりやすくお話いただいたことに感謝。
- ・放射線が身近なところでたくさん利用されていることを知り驚きました。
- ・とても分かりやすく、日頃感じていた疑問が解けました。嬉しい講演でした。ジャーナリストよりも研究者とか実際に運用している人たちのお話を聞きたい。
- ・テーブルディスカッションでは、地元の人方の本音が聞こえて参考になりました。政治的・その他の駆け引きなしに正確な情報を知りたいものです。

アンケート数値でも今後希望する参加形式は「講演」「関連施設見学」が上位に。「正しい情報を知りたい」「情報を判断する知識が欲しい」という気持が窺えます。



メンバーからひとこと

*プルサーマルは賛成だ。電気が自由契約になればいい。関東圏になぜ原発ができない、等など。率直で大胆な発言続々にもっと時間が欲しい。同一県内でも顔を合わせて話すことが大切と感じた。(中野)

*久保寺先生のわかりやすい説明に「眼からうろこ」の感激。テーブルトークでは事故のない安全な運転を期待ということで一同納得。(北本)

*初めて原発立地の人々の生の声を聞き、消費地と生産地という関係ではなく、皆で考えていかなければならない問題だと再認識した。できれば、子育て中の若い人たちと勉強する機会が欲しい。(祖父江)

*ウズベクの「ガスの火つけっぱなし・日常的な停電」の話に、一同「へっ！」エネルギーがテーマの国際会議か、はたまた日本語教室か。一同「また会いたいね」と笑顔で終了。(寺尾)

*聞いてほしい！知ってほしい！こと等が浜どおりの参加者から次々と…参加者全員が進行役？になってスタートから熱が入った。これまでこの様な交流の場が無かったということで「あすかEF」にあたたかいエールが。“声がかかればどこへでも参加します”…とも(渡辺)

*主人の仕事の関連もあって、原子力に興味があり参加した。初めてのトークは貴重な意見をたくさん聞くことができた。この大事な声をどう反映していくか、考えていきたい。(飯島)

*「十分な教育と健康管理を受けていても体の不調には原子力発電の影響を疑う」それが地元住民の深層だとすれば「アタマでわかること＝得心すること」への途はまだまだ遠い。(川西)

*原子力についてしっかり勉強している地元の人達が福島市内の人達の質問に丁寧に答えていることに感心した。生活者同士が話し合い気づき合うコミュニケーションによってこそ、納得のいく理解が得られると思った。(秋庭)

*地元の発言は、具体的で迫力があつた。私を含め消費地の者は、マスコミ情報の真偽をただ確認するに留まり迫力には欠けていた。この温度差をどうしたら埋められるのが課題？(溝辺・高橋)

あなたの身近なグループで「エネルギー・環境問題」についての勉強会を開いてみませんか？

資料や講師などの、お問い合わせ・ご相談は
あすかエネルギーフォーラム事務局
 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留 2-8-4
 日本橋コアビル
 Tel&Fax 03-3639-5518 へご連絡を！